

平成 27 年度第 1 回習志野市市民協働推進委員会 会議の概要

1	会議名	平成 27 年度第 1 回習志野市市民協働推進委員会
2	開催日時	平成 27 年 5 月 25 日（月）午後 1 時 30 分から 3 時 00 分
3	開催場所	サンロード津田沼 6 階特別会議室
4	出席者	<p>委員：鎌田委員（委員長）、江澤委員（副委員長）、井上委員、牧野委員、栢委員、石津谷委員、杉山委員、野手委員、和田委員、佐々木委員</p> <p>市側：宮本市長、齋藤市民経済部長、松岡市民経済部次長 事務局：【協働まちづくり課】島本課長、上野市民協働推進係長 金木主任主事</p> <p>傍聴者：なし</p>
5	議題及び 会議の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 委嘱状交付 2. 市長挨拶 3. 職員紹介 4. 委員長及び副委員長の選出 5. 委員紹介 6. 会議録署名委員の指名 7. 議題 <ol style="list-style-type: none"> （1）市民活動団体支援の施策について （2）市民参加型補助金審査委員会について 8. その他 <p>【会議の概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 委嘱状交付 各委員へ市長から委嘱状を交付 2. 市長挨拶 私も 4 月 27 日から新たな市長の任期が始まりました。また 4 年間よろしくお願ひします。 さて、これからの時代、行政ができる範囲が限られていく中で、市民協働や民間活力の導入は重要な課題であり、協働型社会の構築は今まさに重要な時期を迎えている。 現在 1 千兆円ある国の借金が、60 年後には 1 京円を超えるとされているが、そもそも借金を負担してくれる人もいないという状況にある。 また、法律や条例で動いている行政職員がボランティアを行うのは好ましくないことであり、行政にいろいろ任せるとは経済的にも、法律的にも限界を迎えている。 そのような中で、この会議の場では、市民と行政それぞれですべきことのすみ分けなど、これからの協働型社会のあ

	<p>り方について、貴重な御意見を頂戴したいと考えている。 どうぞよろしくお願いします。</p> <p>3. 職員紹介 市民経済部長より職員紹介。</p> <p>4. 委員長及び副委員長の選出 【委員長】委員の互選方法として指名推薦とし、鎌田委員を選出。 【副委員長】委員の互選方法として委員長の指名推薦とし、江澤委員を選出。</p> <p>5. 委員紹介 各委員より自己紹介。</p> <p>6. 会議録署名委員の指名 名簿順により、井上委員と牧野委員を指名。</p> <p>7. 議題 (1) 市民活動団体支援の施策について 事務局 資料4について説明。</p> <p>・・・・・・・・・・質 疑・・・・・・・・・・</p> <p>牧野委員 この委員会では、私たちもコスト意識を持って議論したいので、各事業の予算を教えてください。</p> <p>事務局 主なものとして、市民参加型補助金の補助金分として260万円、地域デビュー支援事業の実行委員会への委託費が50万円、市民活動スキルアップ講座など各種研修の講師謝礼が30万円、このほか、みんなでまちづくりの消耗品費として3万5千円を計上している。 また、市内3大学の地域課題解決策公開コンペティションについては、国の交付金を活用するという事で、26万3千円を計上している。</p> <p>鎌田委員長 「市内3大学生による地域課題解決策公開コンペティション」について補足させていただく。 昨年度、市長と3大学生との意見交換会を開催したが、千葉工業大学で言えば、「袖ヶ浦団地再生計画」として、学生寮を出た学生が袖ヶ浦団地に入居して、町会活動に参加したり、</p>
--	--

	<p>他の団地入居者の生活支援を行うことで、UR 側も家賃を 1 割程度軽減するという仕組みづくりに現在取り組んでいる。</p> <p>学生コンペティションについても、今後、開催に向けた話が固まったら、この場を借りて報告したいと考えている。</p> <p>先ほどの事務局説明で、地域デビュー支援事業について「学生の地域デビュー支援に積極的に関わっていく」という説明があったが、具体的にどのような計画か。</p> <p>事務局 まだ、実行委員会でも具体的な話までは決まっていないが、大学生の地域貢献を広げる取り組みとして、若い世代へのアプローチにも力を入れていきたいと考えている。</p> <p>鎌田委員長 地域デビュー支援事業と 3 大学のコンペティションをうまく連動させられると良いのではないかと。地域の方々と連携することにより、学生の提案も、より実現に近づけられると思う。</p> <p>杉山委員 まちづくり参画証について、どのようなタイミングでどういったものを発行しているのか。</p> <p>事務局 例えば、町会活動で地域のお子さんがボランティア活動を行い、それが社会貢献活動として認められるということで町会長さんがお子さんを推薦し、市からまちづくり参画の証明と感謝の意を込めて、賞状のようなものを発行するといった制度である。</p> <p>これまで主に、町会や公民館などのイベント参加のほか、市の事業でもきらっとジュニア防犯隊などに対して発行している。</p> <p>平成 26 年度の実績としては、7 団体に対し、延べ 365 枚を発行している。</p> <p>(2) 市民参加型補助金審査委員会について</p> <p>鎌田委員長 市民参加型補助金審査委員については、同設置要綱第 3 条第 1 項の規定により、市民協働推進委員会の委員長が指名することとなっている。</p> <p>よって、市職員を除いた 8 名の委員の皆さまにお願いしたいと思うが、いかがか。</p> <p>委員：異議なし</p>
--	--

		<p>事務局 資料5～資料7-3について説明</p> <p>鎌田委員長 これまでどおり、審査委員に関係する団体から補助金の申請があった場合、該当する審査委員はその事業の審査に加わらないということにしたいと思うが、いかがか。</p> <p>委員：異議なし</p> <p>・・・・・・・・・・質疑・・・・・・・・・・</p> <p>石津谷委員 例年、各団体のプレゼンの合間に採点票を記入するが、時間が短いと思うので、この時間をもう少し長くすることはできないか。</p> <p>事務局 プレゼン10分、質疑応答5分、採点5分、入れ替え等で5分の予定を組んでいるが、時間調整したいと思う。</p> <p>栢委員 私も採点時にいつも時間が足りないと感じている。 例えば、採点票の評価欄が全て記述式になっているので、公益性などの各評価項目の中にチェック項目を加え、チェック式と記述式の併用で採点できるような形に様式を変えてもらえればと思うが、可能か。</p> <p>事務局 対応させていただく。</p> <p>牧野委員 5月29日に申請書の提出を締め切って、補助金審査委員会の行われる6月20日までの間、いつ頃までに審査書類を送ってもらえるのか。書類確認に時間がかかるため、なるべく週末を挟むような形で早めに送ってほしい。</p> <p>事務局 5月末に申請を締め切り、各団体の書類がそろい次第、対応させていただく。</p> <p>江澤委員 まだ現段階で1団体しか申請に来ていないということだが、例年のペースと比較して、このような状況で大丈夫か。</p>
--	--	---

		<p>事務局 現状、1 団体を受け付けているが、この他にも既に窓口 に書類を持ってきた団体が 2 団体あった。しかし、記載内容等 が不十分で、一度書類を戻している状況である。このほか、 申請予定と聞いている団体が 5～6 件程度あるので、少なく とも 7～8 件の申請があると想定している。</p> <p>井上委員 昨年度、プレゼンテーション終了後の意見交換会の中で、 書類の書き方がわからない新しい団体に対して申請書類の書 き方講座を行ったかどうかという意見が出たと思うが、その ような講座は開催したのか。</p> <p>事務局 今年度は特に講座を開催していないが、申請書類作成の手 引きと記入例を新たに作成し、補助金説明会で配布したり、 市ホームページでも掲載している。 また、窓口で申請手続きをする際には、職員が書類を確認 し、話を聞きながら書類の記入について指導をしている。</p> <p>井上委員 審査をする側としても、例年、書類の書き方が不十分で、 事業の発展性や持続性といったものが書類から読み取れず、 審査に苦慮することが多々あったので、配慮してもらいたい。</p> <p>事務局 書類受け付け時には念入りに内容を確認し、また来年度に 向けた改善につなげていきたい。</p> <p>8. その他 事務局 平成 26 年度第 3 回習志野市市民協働推進委員会の議題の 一つだった「公共サービス市民協働提案制度」の進捗状況に ついて簡単に報告させていただく。 こちらは、高齢者支援課が担当している「認知症サポータ ー養成講座」について、エーザイ株式会社と講座や研修開催 等について、市と協働で事業実施を行うというものだが、前 回の会議終了後、エーザイ株式会社の提案を採択することが 確定した。 現在、事業担当課である高齢者支援課で、協定書ないし覚 書の作成に向けた調整を行っている。 今後、改めて進捗状況の詳細について報告したいと考えて いる。</p>
--	--	---

		<p>和田委員 子育て支援課では、現在、ひとり親家庭の学習支援が重要な課題となっており、他市では学生ボランティアを活用している事例もあるため、市内3大学生による地域課題解決策公開コンペティションのような取り組みには非常に興味がある。</p> <p>鎌田委員長 行政が実際に困っている課題を提示し、学生に提案させるような課題設定も良いと思う。習志野市内の大学は、理系に特化した大学だが、1～2年生であれば幅広い視点での課題解決にチャレンジでき、3年生以上であれば、それぞれの専門性を活かした提案ができると思う。</p> <p>牧野委員 行政の力だけでは解決できない地域課題について、市民の力を借りて解決していく体制を整備することが非常に重要だと思う。 市民活動支援センターの役割として、もっと行政が抱える地域課題を提示し、課題解決に向けた市民活動団体等とのマッチングに積極的に取り組むべきだと思う。</p> <p>杉山委員 津田沼高校の生徒も学習支援ボランティアを行っているようなので、理系の分野は大学生、文系の分野は高校生といったすみわけもできると思う。 ただ、市民がそういった活動をしているということ自体があまり浸透していないので、行政も積極的に情報収集しなければいけないと思う。</p> <p>栢委員 先日、大久保地区の公共施設再生計画のワークショップに参加した際、自習室が有料と聞き、そのような支援を必要とした子どもたちだけでも無料で開放してもらいたいと思った。市役所の中でも、課題解決に向けた部署を越えた連携がとれていないように感じた。</p> <p>江澤委員 地域課題解決に市民カレッジ卒業生の力を活用することはできないのか。</p> <p>石津谷委員 地域デビュー支援事業実行委員会でも積極的に市民カレッジに足を運び、地域活動への参加の呼びかけを行っているが、なかなか効果を感じられない。カレッジ生の「地域に出よう」</p>
--	--	--

		<p>という意欲が低下しているように思う。</p> <p>事務局 カレッジに入学するにあたり、みなさんそれぞれ学びたいという意欲を持っていると思うが、実際に学んだことを地域に還元しようとすべての方が考えているかと言ったら難しいのかもしれない。 昨年度からカリキュラムの中に、新しく「まちづくりコース」を設け、鎌田委員長を講師としてお招きし、地域について学ぶ機会を設けている。 私ども事務局としても、これから市民協働を推進するにあたり、行政課題にマッチングした市民活動団体等を育てていくことの重要性を強く感じている。今までは、団体等がやろうとすることへの支援を中心に取り組んできたが、これからは、団体等に行政課題の解決に関わってもらおう展開へとさらに発展させていきたいと考えている。 今後また、この委員会の中でそういった仕掛けや展開について議論できればと考えている。</p> <p>鎌田委員長 まずは、今ある事業の活用から検討してみるのが良いのかもしれない。</p> <p>・・・・・・・・・・・・・・・・閉 会・・・・・・・・・・・・・・・・</p>
6	問合せ先	<p>所管課名：協働まちづくり課 電話番号：047（453）9337</p>

平成 27 年度第 2 回習志野市市民協働推進委員会 会議の概要

1	会議名	平成 27 年度第 2 回習志野市市民協働推進委員会
2	開催日時	平成 27 年 12 月 18 日（金）午後 3 時 00 分から 4 時 30 分
3	開催場所	サンロード津田沼 6 階特別会議室
4	出席者	<p>委員：鎌田委員（委員長）、江澤委員（副委員長）、井上委員、牧野委員、石津谷委員、野手委員、小久保こども部主幹（和田委員代理）</p> <p>市側：齋藤市民経済部長、松岡市民経済部次長</p> <p>事務局：【協働まちづくり課】島本課長、上野市民協働推進係長 金木主任主事</p> <p>傍聴者：なし</p>
5	議題及び会議の概要	<p>1. 会議録署名委員の指名</p> <p>2. 議題 (1) 習志野市公共サービス市民協働提案制度について (2) 平成 27 年度市民活動団体支援の施策について (3) 習志野市市民参加型補助金採択事業の中間報告について</p> <p>3. その他</p> <p>【会議の概要】</p> <p>1. 会議録署名委員の指名 名簿順により、石津谷委員と野手委員を指名。</p> <p>2. 議題 (1) 習志野市公共サービス市民協働提案制度について 事務局 資料 1 について説明。</p> <p>・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 質 疑 ・・・・・・・・・・・・・・・・</p> <p>牧野委員 この協働事業について、今年度の取組みとしては、シンポジウムの開催のみということか。</p> <p>事務局 今年度の取組みとしては、このシンポジウムのほか、医療と介護の専門職の職員を対象とした「医療・介護連携推進のための多職種研修会」を 11 月 14 日に開催している。</p> <p>牧野委員 このエーザイとの協働事業については、以前、この会議の中で</p>

議題として話し合った件でもあり、次年度以降も協定を継続する予定であれば、事業の進捗状況について確認しなければならないと思う。報告事項とはいえ、もっと詳細な資料を提出してもらいたかった。

事務局

今回の協働事業については、委員の皆さまから様々な意見を頂戴し、その意見を踏まえて協定を締結したことについて、このような形で報告させていただいたが、資料が不十分だった点については、今後、是正していきたい。

鎌田委員長

ちなみに、協働事業を実施しての感想や改善点などの意見は出ているか。

事務局

悪い評価は聞いていない。今後も、市の担当部署とエーザイとで事業の評価を行い、次年度以降の協定締結の有無について協議を行うことになる。

江澤副委員長

この事業は単年度で実施するということでよいか。

事務局

この委員会でいただいた意見を踏まえ、一社独占にならないよう、年度ごとに協定を更新する旨で協定を締結している。

鎌田委員長

エーザイならではの知恵やノウハウを生かしてシンポジウム以外の新しい取組みにもチャレンジしてもらえればと思う。

(2) 平成 27 年度市民活動団体支援の施策について

事務局

資料 2 について説明

・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 質 疑 ・・・・・・・・・・・・・・・・

石津谷委員

私自身も記載された事業の多くに関わらせてもらっているが、市民の参加者が少ないことをいつも残念に思う。

みんなでまちづくりについては、イベントが重なる 11 月という日程も問題ではないか。

		<p>鎌田委員長 事務局でもイベントを運営するにあたり、気づきの点などはあるか。</p> <p>事務局 みんなでまちづくりについては、現在の市民協働インフォメーションルームが 11 月に開設したことを踏まえ、毎年度、その時期に合わせて開催している。 市民活動団体の方々が活動紹介の展示をすることで、団体同士の交流を深め、また、市民の方々にも活動内容を知ってもらうことを目的としているが、長年、一般市民の方の来場者が少ないことが課題とされている。 行政としては、市の広報紙やホームページへの掲載など、また市民活動団体としても、ちらしの配布などでイベントの周知活動を行っているが、今年度の来場者 320 名のうち、半数近くが団体関係者という状況になっている。 市民活動をしたいと思っている方が一定数いることは、市民アンケートでも明らかになっている。そういった方々に団体活動について興味を持ってもらうためにも、団体の方々には、年間の団体活動を通じて、みんなでまちづくりの宣伝活動を行ってもらい、それぞれの団体活動に興味を持った市民の方が、みんなでまちづくりに足を運ぶような仕組みづくりも検討する必要があると考えている。</p> <p>牧野委員 この市民協働インフォメーションルームの開設に合わせて行っているイベントということだが、例えば、浦安市の市民活動センターの事例では、ショッピングモールのような人の集まる場所でイベントを開催している。 また、県の市民活動イベントが 12 月 5 日の土曜日に南船橋のらぽーとで開催され、2,300 人の人出があったと聞いている。 しかし、そのイベントは、これまで市民活動に全く興味のなかった人に少しでも市民活動に触れてもらいたいという「広く浅く」を目的として開催されたものであり、みんなでまちづくりの目的とは異なるかもしれない。 いずれにせよ、みんなでまちづくりも、誰のために、またどういった人に来てもらいたいのか目的をもっと明確にすると、300 人という来場者数が多いのか少ないのかも変わってくるのではないか。また目的が明確になれば、それによって団体の人たちも何をすべきかおのずと決まってくると思うので、企画の段階から、開催目的を明確に定めてもらいたいと思う。</p> <p>鎌田委員長 みんなでまちづくりの企画は市が行っているのか。</p>
--	--	---

		<p>事務局 みんなでまちづくりについては、参加団体が主催となり、さらにその参加団体の中から企画運営委員会を立ち上げている。</p> <p>鎌田委員長 予算も決まっていて、場所も固定されているのか。</p> <p>事務局 予算は消耗品のみを計上しているもので、それ以外は団体が各自工夫して開催している。 場所については、京成津田沼駅ビル サンロード津田沼の 5 階、6 階を会場としている。</p> <p>牧野委員 イベントの中で物販はあるのか。</p> <p>事務局 手芸サークル（手芸ボランティア）が手作りの小物を販売しているが、その売り上げは社会福祉協議会に寄付していると同っている。</p> <p>井上委員 私自身、9 月にモリシア津田沼で開催された地域デビュー応援フェアを現地で見たのだが、大勢の人に立ち寄ってもらうという点では、あのようなショッピングモールで開催することは、とてもいいアイデアだと思った。単に知ってもらうことだけを目的としたイベントをあのような場所で開催することも良いのではないか。</p> <p>事務局 みんなでまちづくりにしても、地域デビュー支援事業にしても、常々、集客が課題となっているが、私どもとしても、何を目指しての集客なのかが非常に重要と考えている。 地域デビュー支援事業については、団体への加入へとつなげるために、幅広い集客を図るべきと思うが、みんなでまちづくりに関しては、必ずしもそうでなくても良いと考えている。 それぞれの事業で実行委員の方々とは今後のあり方について、きちんと検討していきたいと思う。</p> <p>江澤副会長 地域デビュー支援事業の「地域デビュー」とはどういったことなのか、周囲に伝わっていないように感じる。 例えば、市民カレッジ生にしても、卒業生が実際に地域活動に参加しているケースが非常に少ないことを残念に思う。</p>
--	--	--

		<p>石津谷委員 市民カレッジ生については、地域デビューなどのイベントを開催するにあたり、毎回ちらしを配布しているが、イベントへの参加者はほとんどいない。</p> <p>鎌田委員長 そのような課題等についても、きちんと戦略を練らなければいけないのではないかと。 団体間の交流や拠点の充実も重要だが、さらに深く切り込むようなテーマを設定し、テーマの評価を行う仕組みづくりが必要と感じる。 また、市内3大学生「まち・ひと・しごと」政策提案発表会について、今回新たな取り組みとしてチャレンジしたことだが、参加した学生のためにも、ただ提案を発表することだけに終わらず、可能な限り実現へとつなげてもらいたいと思う。 かつて、市と日本大学生産工学部、東邦大学、千葉工業大学の3大学連携の取組みとして、市民環境大学の運営に関わったことがあったが、市民環境大学は、時間をかけ、丁寧に作りこまれた事業だった。 本日、和田委員の代理で出席している小久保主幹がその時の担当だったが、市民環境大学について、この場で簡単に説明していただきたい。</p> <p>小久保主幹（和田委員代理） 市民環境大学は、市民が環境について学び、考える場を提供することで、豊かな地域、素晴らしい地球を将来の世代へ継承できるような社会を創り出す人材育成を目的に、市と3大学とで連携して開催した事業である。 平成21年9月から12月にかけて、全7回の開催だったが、定員を大幅に上回る応募があり、講義の出席率も非常に高かった。 講義を行った教授の方々も、どのような講義であれば市民の方々が興味をもってくれるのか知恵を振り絞って下さった結果、受講者の満足度が非常に高いものになったと思う。 市と大学とで、市民の方に興味をもってもらうにはどうすればいいのか、共通理解を深められたことが成果につながったのではないかと。</p> <p>鎌田委員長 市民環境大学については、3大学持ち回りでそれぞれの大学で講義を行ったため、教授、学生も各大学を訪れる機会があり、その中で交流が生まれた。 また、大学で講義を聞くことに興味を持つ市民の方も非常に多く、大学と市民と市とそれぞれにメリットがあった。 そのようなシステムが成功の秘訣ではないかと。</p>
--	--	---

牧野委員

この政策提案発表会は、2 回目の開催なのか。

また、政策提案発表会について、表彰式とあるが、学生提案に対して審査を行ったのか。

事務局

昨年度は、3 大学と市とで包括協定を締結したことに伴い、「市長と学生の意見交換会」をそれぞれ各大学において、学生の提案に対し市長が意見を述べる形式で開催したが、今年度は、3 大学合同で学生提案を募集し、市長に限らず他の市職員や一般来場者とも意見交換できる形式での提案発表会を開催した。

審査については、3 大学からそれぞれ教授が 1 人ずつ、また市から部長が 2 名審査員となり、市民参加型補助金と同様に「公益性」や「実現性」などを評価項目とし、提案発表会当日に向けて提案をさらにブラッシュアップするための意見をいただくこととし、その意見を学生にフィードバックした。

また賞については、本市の長期計画に位置づけられた施策と照らし合わせ、該当する基本目標を賞として全ての提案に授与した。

牧野委員

そのように説明されたことを資料に記載してもらいたい。

他市を事例に挙げると、中間報告であっても、事業一つ一つの内容について、丁寧に記載している。

事業の改善点や、来年度以降の方向性など、私ども委員に意見を求めているのであれば、この資料では不十分である。

事務局

委員ご指摘のとおり、中間報告ということで、参加者アンケートなどのデータもないままの資料となってしまったことをお詫びする。

市民協働基本方針でも、事業の評価を行うことが記載されているので、次回の会議では、きちんと資料を整えたうえで、委員のご意見を頂戴できればと考えている。

鎌田委員長

市民協働基本方針についても、平成 21 年度に策定されたもので、時代の変化に合わせて内容も見直すべき点が出てきているかと思うので、評価方法も含め、改善を検討するいい機会ではないか。

PDCA サイクルに基づき、その中でこの委員会がどの役割を果たすのか、また、こういった視点で評価を行うのか、少しずつでも今後整えていかなければいけないと思う。

		<p>江澤副委員長 政策提案発表会で行った「ポスターセッション」とはどのような発表形式か。</p> <p>事務局 今回のポスターセッションという形式は、本市のイベントとして初めて実施したものであり、提案内容をパネルに掲示して発表する手法である。 最初に「ポスタープレビュー」として提案内容の概要を 5 分程度で各学生が発表する時間を設け、次の「ポスターセッション」で、来場者はそのプレビューを聞いて興味を持った学生パネルへと赴き、そこで学生と質疑等を交わすという流れとなっている。 学生と来場者が交流できる時間を多く確保できる手法で、学生からも来場者からも好評だった。</p> <p>鎌田委員長 参加した学生も勉強になり、いい発表会になったと思うが、やはりここでも振り返りを大切にしてもらいたい。 例えば、今回は学生が市政に対する政策のプレゼンを行ったが、今度は行政が大学へと出向き、学生に取り組んでもらいたい政策のプレゼンを行ってもおもしろいのではないか。</p> <p>江澤副会長 この政策提案発表会で出された 7 つの提案は今後具体化されていくのか。</p> <p>事務局 全てを実現できるかは別として、庁内でも実現に向けたブラッシュアップに取り組んでいきたいと考えている。</p> <p>江澤副会長 来年もこの発表会を開催するのか。</p> <p>事務局 今回の提案発表会は、地方創生の総合戦略に基づき、学生の市に対する愛着の醸成を図って開催されたものであり、来年度も同じものを開催するというよりは、今年度いただいた提案をどう生かしていくかについて検討したいと考えている。</p> <p>(3) 習志野市市民参加型補助金採択事業の中間報告について 事務局 資料 3 について説明</p> <p>牧野委員</p>
--	--	---

ビューティーケアの事業廃止について、経緯を詳細に教えてもらいたい。

事務局

社会福祉協議会の災害ボランティアセンター立ち上げ訓練で、ビューティーケア習志野の代表と東邦大学ボランティア部長が会い、そこで連携して活動できないかと意気投合したことがきっかけと聞いている。

その後、ビューティーケアの代表がボランティア部顧問に挨拶に伺い、ビューティーケアの事業が日本赤十字の事業の一環であることから、学生に対して基礎講習会を行い、受講証明書も発行し、本格的に協働して活動しようとしたところ、学生からスケジュール的に一緒に活動できない旨の申し出があった。

何回か話し合いの場を設けたが、事業実施困難との判断のもと、事業廃止の申し出があったものである。

石津谷委員

今回の件を聞くと、私たちが考えるボランティアと、学生の考えるボランティアに相違があるように思う。

井上委員

私も学生と一緒にボランティアを行う機会があるが、やはり大人の都合で進めようとする、学生が動けない点が多々ある。

そのため、プランニングを学生に任せるようにしているが、そうすると学生が動き出すまでこちらはひたすら待つようなこともある。それで失敗したらまた次の代への反省としてつなげ、長い目で見守るようにしている。

鎌田委員長

学生のボランティア活動の単位化も進む中、このような地域課題解決型の義務を帯びたボランティアへの学生参加は課題となっている。

実際にボランティア活動を行っている方々を大学にお招きし、ボランティアについてきちんと学ぶ場を設けることも重要ではないか。

また、他にトラブルになりやすいケースとして、学生がただの労力として使われてしまうこともある。

牧野委員

四街道市では、ボランティアを受け入れる側の体制づくりとして、ボランティア体験受入れの心構えやプログラムの作り方等について団体が学ぶ講座を市民活動センターが開催している。

せっかく参加したボランティア体験が残念なものになってしまえば、その人のボランティアに対する思いがそこで途切れてしまう可能性もあるので、丁寧なプログラム作りについて学ぶ場は

		<p>非常に重要と感じる。</p> <p>鎌田委員長 先日、千葉コラボ大賞の表彰式に参加させていただいたが、受賞した団体はどれも丁寧なプログラムを作成している印象を受けた。</p> <p>特に今年度の受賞団体については、各市町村の市民参加型補助金のような制度を活用して成長し、行政の各部署を横断的につなぎながら活動するケースが多いように感じた。</p> <p>このように、各自治体から様々な市民協働の優れたケースを出し合い、県全体の協働のレベルが上がることを期待している。</p> <p>また、習志野市からも、そんな他市に誇る協働事例が出されるよう、この会議の場でも議論していきたい。</p> <p>3. その他 事務局 次回の推進委員会については、3月の開催を予定しているが、また後日、日程を調整させていただく。</p> <p>本日いただいた意見を基に、資料を整理することと、また次年度に向けての課題の洗い出しを行い、皆さまの意見を頂戴できればと考えている。</p> <p>・・・・・・・・・・・・・・・・閉 会・・・・・・・・・・・・・・・・</p>
6	問合せ先	<p>所管課名：協働まちづくり課 電話番号：047（453）9337</p>

平成27年度第3回習志野市市民協働推進委員会 会議の概要

1	会議名	平成27年度第3回習志野市市民協働推進委員会
2	開催日時	平成28年3月18日(金)午前10時00分から11時30分
3	開催場所	サンロード津田沼 6 階特別会議室
4	出席者	委員:鎌田委員(委員長)、江澤委員(副委員長)、井上委員、栢委員、石津谷委員、杉山委員、野手委員、佐々木委員、和田委員 市側:齋藤市民経済部長、松岡市民経済部次長 事務局:【協働まちづくり課】島本課長、福元主任主事 傍聴者:1名
5	議題及び 会議の概要	<p>1. 会議録署名委員の指名</p> <p>2. 議題 (1)平成27年度市民活動団体支援の施策について(実績報告) (2)平成28年度の検討事項について (3)平成28年度の新規事業について</p> <p>3. その他</p> <p>【会議の概要】</p> <p>1. 会議録署名委員の指名 名簿順により、井上委員と栢委員を指名。</p> <p>2. 議題 (1)平成27年度市民活動団体支援の施策について(実績報告) 事務局 資料1-1及び資料1-2について説明。</p> <p>.....質 疑.....</p> <p>石津谷委員 多くの事業に私自身、団体として関わっているが、「地域デビュー支援事業」も「みんなでまちづくり」も毎年同じような繰り返しになっていると感じている。 また、子育て世代の人たちにも来場してもらいたく、特化した周知を行ってきたが、効果が表れないのが現状。「みんなでまちづくり」など、親子3世代で足を運んでもらいたいので、魅力的な企画が必要だろうと感じている。</p> <p>栢委員 私自身、「地域デビュー支援事業」に団体として参加した結果、今年度3名の体験受入れを行った。参加してくれた方からは、「とてもいい経験になった」や「視野が広がった」などの感想をいただき、活動を体</p>

験してみても初めてわかることはたくさんあるのだと強く感じた。
 また、母親世代の参加についても、就学児や3～4歳児の母親は忙しく、団体活動への参加が難しいことから、最近ではターゲットを0～2歳の母親へと拡大しつつある。
 「地域デビュー支援事業」でも、その世代の母親に向けてアプローチしてみてもどうか。

杉山委員

母親世代の特徴として、拘束時間が長い活動は敬遠する傾向にある。それは、専業主婦であっても自由な時間はあまりなく、「手伝います」と言って果たしてどこまでやれるのかという不安などから、しり込みしてしまう人が多いように感じている。
 現在、社会福祉協議会では、市民カレッジと協力してボランティア体験の受入れを行っているが、やはり「体験をする」ということは重要と感じる。どの世代でも、楽しみながら活動できる体験プログラムを用意してあげることなど工夫をすると良いと思う。

井上委員

ボーイスカウトの保護者の参加体験でも、気軽に体験できる活動が望まれ、団体の運営に関わる活動になるとしり込みしてしまう人は多い。やはり、気軽に楽しくできる体験ということが重要なのだろう。

栢委員

「地域活動出会いフォーラム」では、各団体それぞれ気軽に楽しく体験できるプログラムを用意し、一生懸命魅力的なプレゼンを行っていると思うが、それでも来場者が少ないことを残念に思う。

江澤委員

町会でも、担い手不足が課題となっているが、そもそも「ボランティア」というものの定義を改めて考える時期に来ているのではないか。
 例えば、力仕事のように、自分たちの活動で一番大変な仕事を無償でやってもらうことが可能なのか、考える必要があると思う。

石津谷委員

ボランティアといえども、人の命を預かる仕事については無償で手伝ってもらうということではできないと考えている。ある程度の責任が生じる仕事を無償で請け負ってもらうべきなのか、団体としても考えなければいけないことだと思う。

栢委員

無償ということに関して、市民参加型補助金の話になるのだが、補助金採択団体が自身の団体メンバーを講師とした場合、報償費(謝礼)が対象経費として算定できないという点も、もう少し考慮してもらえると良いと思う。

		<p>井上委員 市民参加型補助金の補助対象経費については、これまでも各団体の人件費などの考え方が大きく異なり、難しい問題だと毎年思っていた。認めてあげたい部分もあるが、認めるならば、より細かな精査が必要になると思う。</p> <p>江澤委員 市民参加型補助金も8年目を迎え、時代の変遷に沿った見直しを行うべき時期にきているのではないか。</p> <p>鎌田委員長 そのあたりの見直し、評価に関しては、事務局からの提案があるようですので、次の議題の中でご意見をいただくことにしたいと思います。</p> <p>(2)平成28年度の検討事項について 事務局 資料2-1、2-2、2-3及び参考資料について説明 ……………質 疑……………</p> <p>江澤委員 協働事業に限らず事業評価は重要である。今後、どのように協働事業の評価をしていくのか、具体的に考えがあれば伺っておきたい。</p> <p>事務局 今回は、頭出しとして事務局として課題と捉えていることについて、お示したもので、具体的には平成28年度の当委員会の中でご意見をいただきたいと考えている。 本日の施策実績報告において、新たな資料で説明させていただいたが、この資料体裁を加工するなど、評価する上での項目等を整理し素案として提示していきたいと考えている。 本日は、習志野市で実施している後援による協働から事業委託・補助による協働までの領域での全事業を評価対象とすべきかという点も含めて意見を伺いたいと考えている。</p> <p>江澤委員 そうすると事務局から、各事業のメリット、デメリットを提示してもらえるのか。</p> <p>事務局 基本的に、実施している協働事業にデメリットというものはなく、あるとしたら課題だと考えているので、そのあたりも資料に整えられれば提示したい。 また、先ほど話に挙がっていた「みんなでまちづくり」等に子育て世代を呼び込むということについてだが、そもそも、子育て世代を対象と</p>
--	--	---

した参加団体が少ないこと、また、子育て世代も自由な時間が少ないことなどから、メインターゲットにすることは難しい事業であると考えている。団体を知ってもらうのか、もしくは団体に入ってもらいたいのか、この点については「みんなでまちづくり企画運営委員会」や「地域デビュー支援事業実行委員会」の中でも協議していきたい。

さらに、市民参加型補助金の補助対象経費についてだが、団体の行う事業に対し、内部講師料を補助対象とすることは難しいと考えている。

井上委員

市民参加型補助金の内部講師の謝礼についてだが、団体の経済状況が厳しく、より低コストで有意義な内容にしようと思いをめぐらせた結果、内部の人材を活用することで成功するケースもしばしばある。そのような場合、内部講師に対する謝礼についても補助対象経費と認められると団体側としてはとてもありがたいということは理解しておいて欲しい。

鎌田委員長

事業評価という点では、まずは、「市民参加型補助金」と「公共サービス市民協働提案制度」、また「地域デビュー支援事業」の3事業に的を絞り、その事業がターゲットにきちんと届いているのか、そしてターゲットはどの層にするのか等、そのような点を踏まえた制度設計を事務局で行い、案が整ったところでこの委員会にお示しいただくこととしてはどうか。

事務局

評価する仕組みを整え、市としても協働型社会の構築を柱の一つにしていることから、まずは、今ほどの3事業について、制度設計案を整え、提示したいと思う。

(3)平成28年度の新規事業について

事務局

資料3について説明

……………質 疑……………

杉山委員

学生が取り組む地域課題とは、どのようなものなのか。

事務局

本年度開催した「市内3大学生『まち・ひと・しごと』政策提案発表会」で出された提案内容について検討し取り組むもので、提案にあたり地域課題に対する提案を求めたものと理解いただきたい。

杉山委員

学生に限らず、市民活動団体だったりシニア層だったり、市民と一緒に地域課題解決に取り組むことが市民協働だと思うのだが、いつも、その地域課題というものが明確に定まっていらないと思う。

市民活動団体も全ての分野で活動を行う団体がいるわけではなく、そもそも人材も不足しており、解決できる課題にも偏りが生じてしまうと思う。どのような課題があり、その課題解決に向けてどのような筋道をたてるのか、きちんと整理すべきと思う。地域課題を把握するために、市民意識調査を行うことも重要ではないか。課題を明確にし、検証を行わない限り、事業として続いていかないと思う。

栢委員

市民活動団体の立場とすると、行政から提示された課題をいきなり解決するとしたら、それは難しいと思う。

行政ができること、学生ができること、団体ができることを明確にし、かつ、活動するうえで自分たちも楽しく成長できるメリットを感じられることが重要ではないか。

また、併せて、実現することも非常に重要で、ワークショップなどで意見を言っても実現されない時の無力感はとても虚しいものなので、目に見える実現というものを目指してもらいたいと思う。

鎌田委員長

今いただいた杉山委員と栢委員の意見は立場的に異なった意見だが、2つの意見を組み合わせることは可能ではないか。

行政が考える課題と大学が考える課題と学生が考える課題がマッチすると、事業も楽しく円滑に進むと思う。それぞれの課題が独立してしまわぬよう、作りこむことが重要なのだと思う。

井上委員

課題の抽出もちろん重要だが、様々な課題が浮き彫りになった時にあれもこれもと範囲が広がり過ぎてしまわぬよう、対応可能な範囲をしっかりと見定め、また年度ごとの評価を行ってもらいたい。

鎌田委員長

「市内3大学生『まち・ひと・しごと』政策提案発表会」で取り組んだ提案については、提案をした学生が卒業してしまい、その後の後輩が取り組むとしても、各大学の得意な分野が活かせるものかということそうではない。学生や大学のニーズにマッチしたものでないと難しいと思う。

江澤委員

少し本題とは違うが、習志野市が今後目指すまちづくりの方向性が見えてこない気がする。住宅都市、工業都市等様々あると思うが、今一度説明してもらいたい。

		<p>事務局 習志野市は文教住宅都市憲章を理念として、様々な課題に対応してまちづくりを進めている。その具体的な中身は基本構想及び基本計画であり、その計画の推進に向けて様々な事業を各部署において実施している。 今ほどの質問に対しては、住宅都市であることに間違いはなく、住みやすさの観点から東部地区の一部と茜浜・芝園地区を工業系とする棲み分けをしていると認識をしている。</p> <p>石津谷委員 私たち市民が文教住宅都市憲章を守り、住みよいまちにするために、自分たちができることを行っていかなければいけないと思っている。</p> <p>栢委員 学生のような若い人がまちづくりに関わってくれることは本当に素晴らしいことと思う。自身の団体でも、なかなか各自の時間がなく、皆が集まることは難しいが、同じ志を持った仲間が集まるのが刺激やリフレッシュになっている。市民活動が仕事や学校、家庭以外のもう一つの居場所として機能するようになると良いと思う。</p> <p>鎌田委員長 本日、各委員から出された意見は今後の指標となるものも多かったので、会議録以外にもワンペーパーに要点をまとめてもらいたい。</p> <p>3. その他</p> <p>事務局 習志野市市民参加型補助金 平成27年度実績報告会・平成28年度制度説明会について説明</p> <p>栢委員 補助金実績報告会について、事業について知ってもらうためにも、各事業担当課に可能な限りでも出席の働きかけをおこなってもらえるとありがたい。</p> <p>事務局 担当課にも案内させていただく。</p> <p style="text-align: center;">……………閉 会……………</p>
6	問合せ先	<p>所管課名：協働まちづくり課 電話番号：047(453)9337</p>